

---

# 賽はぶん投げられた。

雷雨

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

賽はぶん投げられた。

### 【Nコード】

N7242Z

### 【作者名】

雷雨

### 【あらすじ】

「その不敬は万死に値する。そこな雑種よ、もはや肉片一つ残さぬぞ！」

その言葉に沈黙したマスターとサーバント達、だが、運命のいたずらかはたまたま…定めなのか突発的に賽はぶん投げられた。

「ねえ、——。まだみじゆくな私ですが、どうか契りを交わしてください」

黒髪の少女は小さな手で男のズボンを握る。

少女の言葉に男は首をふった。

それはできない、だがお前がオレに相応しくなったら認めてやろう。その言葉に少女は悲しくなったが頷いた。

「わかった、私、——にふさわしくなるようがんばる。だから、——も約束して……、」

男は鼻で笑うが良いだろう、と頷いた。

「……ありがとう。」

そういつて少女は嬉しそうに笑った

遙かかなた、常闇の空に一つの鳥が地に向かい落下していた。  
黒ずくめの服を風に靡かせ、短く切られた髪を揺らし、閉じていた  
目を開ける

風を肌を感じやがて見えてきた地上を見つめた。

「――E s i s t g r o s 《軽量》 , E s i s t k l e  
i n 《重圧》」

「その不敬は万死に値する。そこな雑種よ、もはや肉片一つ残さぬぞ！」

アーチャーの背後の空間が再び歪む。

そこから現れた無数の武器にその場に居たマスターとサーヴァントは沈黙した。

が、その沈黙は長くは続かなかった。

ルー……

ルー………

ルー………

何だつと皆がは思わず空を仰いだ瞬間、

ズドオンツツツツ！……！！！！

「べぶらっ――！？」

アーチャーの頭上に何かが落下していた。いったーっと砂埃の中で誰かが身体を起こした。

砂埃が晴れるとその場に居た（見ていた）サーヴァントとマスターは驚愕した。

そこに居たのは短い黒髪の少女が居た。

白いインナーに上下に白のラインが入った黒いライダースーツ、胸元で揺らす赤い石がはめ込まれた銀色の剣のペンダント。腰にはウエストポーチとどこにでも居そうな平凡な少女が居た。

その下には惨めにも地面と激しくこんにちはをしているアーチャーが踏み台になっていた。

「んー、着地失敗したなあ…もう少しスタツと着地したかったけど…まあ、いつか。」

うんうん、つと頷く少女はようやく回りを見渡しセイバー達の視線に気がついた。

「やあ、これは紳士淑女の皆さま方、大変見苦しいところをお見せしですみません。私はどこにでも居るただの女子なので」

じゃあ、なんで空から降ってきたんだ自称『ただの女子』よ、つとその場に居る数人が思った。

「貴様っ！王である我を踏みつけるとはっ！」

「あ、ここにも居た。」

憤怒するアーチャーに対しいまだに踏みつけたままこんちはーと片手をひらひらさせる。

「金ぴかの人、なんでそんなに怒ってんの？」

「貴様、王である我になんという口の聞き方だっ！？」

「だって、アンタ全身金ぴかだし…あ、金ぴかの人もしかして聖・土星矢に出てくる人？」

こてん、と首を傾げる少女。

「なんだその妙くりんの名はっ！？小娘、今すぐに我<sup>オレ</sup>から降りろっ！」

「まあまあ、そう言わずにちよつと待ってねえー」

腰のウエストポーチから取り出されたのは歪の形をした剣、その剣をアーチャーに向けた。

突然のことで反応が遅れ、ただでさえ体性が悪いため剣を武器を出すことも出来ず少女の剣はアーチャーの背中を刺した。

その瞬間、アーチャーの中になった何かが途切れた、脳裏で時臣がなつ々と驚愕した声がしたと思うと念話が途切れた。

ニヤリと背少女の口が歪むと、アーチャーの背に手を着いた。

「閉<sup>みたせ</sup>じよ。閉<sup>みたせ</sup>じよ。閉<sup>みたせ</sup>じよ。閉<sup>みたせ</sup>じよ。閉<sup>みたせ</sup>じよ。」

少女の口から唱えられる聞き覚えのある呪文にマスターは驚いた。

「貴様っ！魔術師だと！？」

「繰り返すつどに五度。ただ、満たされる刻を破却する。」

—— 告げる。

汝の身は我に、汝の剣は我が手に

聖杯の寄るべに従い、この意この理に従うならば応えよ！

誓いを此処に、我は常世総ての善と成る者！ 我は常世総ての悪を敷く者

汝 三大の言霊を纏う七天、抑止の輪より来たりし 天秤の守り手よ」

ここまでが、マスターらが唱えサーヴァントを召喚した呪文だが少女の呪文は続いた」

「我に従え ならばこの命運、汝が剣に預けよう！

今こそ約束の時、サーヴァント・アーチャー 真名——、呪術によりその名を縛り 我に従える。 此れにより契約は交わされた。」

キンッと少女の左手の甲に痣が刻まれた。

「サーヴァントとの、再契約っ!？」

少年、ウェイバーは驚愕し、ランサーのマスターのケイネスも驚いた。

左手の甲を見つめていたが、スッと視線を上げ口を開いた。

「えっ……ただいまをもってこの無駄に金ぴかの弓兵は私の下僕となりました」

アーチャーを踏みつけたまま、さらりと宣言した少女。

アーチャーは激怒し頭を上げ罵声をはこうとしたがそれよりも早く少女によって再び地面とこんにちわをした。

「図が高い、金ぴか。」

先までの覇気はなく無惨に地面に這いつくばるアーチャー、そのグ

リグリと頭を踏みつけニコニコと笑う少女。

「ああ、自己紹介がまだだったな、私は神威……。またの名を『深<sup>ガイ</sup>紅<sup>ネット・ハンター</sup>の狩人』……

とある、事情からこの地に来た。あと、即行に言っておこう。私がこの地に来た目的はあるもの回収と救出。別にお前らの争いに首を突っ込む気は今はない。……以上っ！」

「さ、紳士淑女の皆さま方、私にお気にせずちゃっちゃとやってくださいな」

この状況でどうしろと言うんだっ！？とマスターとサーヴァントの心が一つになった。

（後書き）

つと言う夢を見ました。（マジで）

なんて夢見てんだよーっと思いつながらも面白そうなので一日で書いてみました。

出てきた女の子、誰だよっと思いつ込みながら…

夢でところどころ曖昧な部分がありました書き足しました。

これを連載するのは気力的に無理だと判断しました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7242z/>

---

賽はぶん投げられた。

2011年12月24日01時47分発行